

# 8年後のフクイチの現在

日野支部教宣部長 西村 滋雄

5月8日、日野支部の有志(奈良委員長、西村教宣部長、中書記、けんせつ編集部も同行)が福島第一原発(フクイチ)を視察しました。今回の視察は地元NPO法人のついで実現したもので、視察では東電の福島第一廃炉推進力本二・廃炉コミュニケーションセンター職員案内で、富岡町の東京電力廃炉資料館を見学後、東電のバスでフクイチへ移動、廃炉の現状などの説明を受け、フクイチ構内用のバスで約1時間、視察しました。西村教宣部長の報告を掲載します。(見出し・写真は編集部)

## 圧倒される原子炉建屋

### 果して廃炉処分できるのか

福島第一原発(フクイチ)に入っている使用済み核燃料と溶け落ちたデブリ(溶融した核燃料や原子炉構造物が混ざり合い冷えて固まったもの)を出す作業を容易にするための姿が変わっていた。

100万坪あるフクイチには震災で津波の被害を受けた1〜4号機、受けなかった5・6号機の原子炉建屋があり、工程計画では40年くらいで廃炉処分されるという。しかし、本当に可能なのかどうかはわからない。



フクイチの構内を映像で紹介する廃炉資料館の展示(画面はドーム屋根が見える3号機建屋)



西村さん

原子炉建屋は建屋のプール

ペースが設けられている。3号機は天井から作業するためのドームが乗っかっている。4号機は周りを鉄骨で囲われていて、その鉄骨の総量は東京タワーと同量だといふ。使用済み核燃料は1〜4号機に



フクイチ近くで建設中の中間貯蔵施設

約3000本あり、5・6号機を合わせると約7000本になる。4〜6号機のもはもう中間貯蔵プールに納められ、2号機は取り出しが始めた。デブリの方はまだ手付かずで今年の2月に新聞でも「デブリを持ち上げた」と話題になったが、その後、デブリではなかったという報道も出た。東電の職員によれば、きちんと調べてみないと分からないといふことだ。

#### 一生分になる 建屋前の線量

私たちはバスで1〜4号機の

## あてのない最終処分

### 増えていく中間貯蔵施設

の前を通った。そして3号機の前で停まった。車内で線量計で測ると279マイクロロシベルトを示した。今までに見たことがない線量だ。廃炉資料館の職員は「建屋の前で1時間居ると一生分の放射線を浴びることになります。この前で生身でいることはできません」と言っていた。私たちが外でこの建屋の前に立つことは無理だ。

2〜3年前、凍土壁が話題になった。何百億円かけて作られたが、これだけでは汚染水は減らなかった。凍土壁が100%凍らなかったためもあるが、凍土壁だけではダメだったのだ。今は敷地全面をコンクリートで覆い、何本もの井戸を掘り、それらの効果でようやく汚染水は減っており、データにも残っている。

## 不安な放射性トリチウム 汚染水は行き場なし

震災当時、吉田所長のもと、必死に被害の拡散を防ごうとして、延べ何十万の人たち、作業員たちが、建屋を含む100万坪の敷地で働いて

まただったのだ。今は敷地全面に集めたタンクが山積みになっている。今のタンクは3代目で容量は約3000トン。敷地には約9000個が置かれている。報道によるとあと1

張状態になっていた時、緊急に集めたタンクが山積みになっている。今のタンクは3代目で容量は約3000トン。敷地には約9000個が置かれている。報道によるとあと1



原子炉建屋付近では1時間で一生分の放射線を浴びる(廃炉資料館)

青い車体のボンブ車がナンバーを外されて駐車場にあった。このボンブ車は当時、核燃料を冷やすために活躍した車だといふ。他にも駐車場にはナンバーが外された車が何台もあった。これらの車は廃炉作業の最後に処理されていくので、その日ま

で出されることはない。下着と書かれたコンクリートの箱も高く積み重ねられていた。震災当時や現在も線量の高い所で作業の時に支給された服が焼却され、外部に出せないでコンクリートの箱に納められている。この敷地にはそれらとそれ以外にも汚染されたもの、建物が多数残されている。

この8年、フクイチを外側から、テレビ・新聞・雑誌などでも見てきたが、さすがにフクイチを間近に見ると、そして1〜4号機建屋を目の当たりにすると、その姿は本当に凄かった。このフクイチの敷地であった6%にしか当たらない1〜4号機の姿が他を圧倒していた。

## 「政府が前面」むなしく 見えてこない未来

この8年、フクイチを外側から、テレビ・新聞・雑誌などでも見てきたが、さすがにフクイチを間近に見ると、そして1〜4号機建屋を目の当たりにすると、その姿は本当に凄かった。このフクイチの敷地であった6%にしか当たらない1〜4号機の姿が他を圧倒していた。

あの震災当時から現在に至るまで、何十万、何百万の人が働き、関わり、この場から退場していったのだろうか。現在のこのフクイチの姿、原子炉建屋、タービン建屋、排気筒、ねじ曲がったガードレール、鉄筋がむき出しになった建物、それら全てのものが8年の歳月を表している。こ

こで作業した人びとは何を考え、何を思い、これからはどう思っていたのだろうか。フクイチ、そして福島の実を見ると、多くの人びとは放射能に悩まされ、苦しめられている。今でも故郷に帰れない人がたくさんいて、帰って来た人は帰って来たものの、どのようにこの街で生活していくのかと考えるのである。山は全々除染できないまま。フクイチの未来と同じように思える。

この災害の責任は本当に誰にあるのか。安倍首相が言う「政府が前面に立つて」という言葉が、フクイチや福島の実を目前にすると空しく響いてかすんでしまう。

東電の職員が「トリチウムは世界の原発や日本中どこでも海や空気中に放出している」と言った。私はその言葉に本当に驚いた。日本の原発立地の住民はこのことを知らされているのだろうか。そしてトリチウムの被害はないのだろうか。

年でタンクは満タンになり、汚染水の行き場がなくなるという。しかし、今回、東電の職員はいらりと工夫して行けばあと2〜3年は大丈夫だろうと言っていた。もう一つの問題といえは取り切れない放射性トリチウムのことだ。東電側は希釈して海に流したいと言いつつ、県民側は風評被害を生むので反対している。今でもたいへんなのに、ますます魚が売れなくなってしまう。東電と県民の溝は深まるばかりで全く埋まらない。